

「薬局」2025 年 9 月増刊号 (Vol.76, No.11)

薬剤師のための いちばんやさしい輸液管理の本

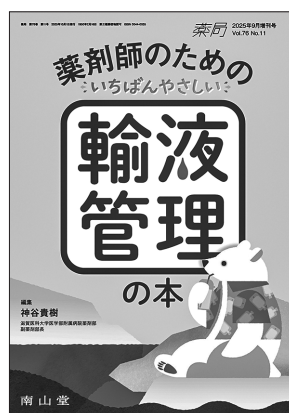
編集：神谷貴樹

この 1 冊で、自信をもって輸液管理ができる

もう 10 年以上前になるが、滋賀医科大学附属病院で栄養サポート(NST)活動を始めて 5 年ほど経った頃に、神谷貴樹先生が滋賀医科大学附属病院の薬剤部に入職され、NST に参加されるようになった。なんと、薬剤師でありながら、管理栄養士の資格も取得しているという、いわゆるダブルライセンスである。立ち上げ時より熱心に活動していただいていた薬剤師、管理栄養士、看護師らに強力なメンバーが加わって、滋賀医科大学附属病院の NST 活動が大きく発展することとなったことは記憶に新しい。また、私が監修したいくつかの書籍においても分担執筆していただき、正確で丁寧な執筆は印象的であった。

私はこれまで、いくつかの大学で、薬学部の講義を担当する経験をいただいた。栄養学という学問は、ダイナミックな、動的な学問である。そして、その基礎になるのは、生化学である。これらは、薬学・薬理学にも共通する点である。現状では、臨床現場で働く薬剤師が、自信を持って栄養管理を実践できているかというと、そうではなさそうである。患者さんに最適な輸液管理をおこなうには、動的な栄養代謝病態を理解する必要がある。さらに、栄養・代謝には、複数の臓器が巧妙に関連し、一つの生命体を成立させている。これらを理解することは容易ではないが、それを考えることは実に面白い。さまざまな患者さんの静脈栄養処方、個々に違って当然である。確かに、わが国における製薬技術の進歩は目覚ましいものがあり、優れた栄養輸液のキット製剤が市販されている。とても有用ではあるが、栄養代謝病態が異なる患者さんに対して、画一化された処方が最適とは思えない。

本書は、第 1 章 輸液管理に必要な基礎知識、第 2 章 輸液の種類、第 3 章 輸液管理デバイス、第 4 章 処方鑑査と疑義照会、第 5 章 病態別輸液管理からな



B5 判 / 304 頁

定価：3,300 円 (本体 3,000 円 + 税 10%)

発行：南山堂 (2025 年 9 月)

る。第 1 章では、輸液管理に必要な基礎知識が分かりやすく解説されている。第 2 章の輸液の種類、第 3 章のデバイスについても、図表や写真が豊富で理解しやすい。第 4 章の処方鑑査と疑義照会、は、薬剤師ならではの項目であり、とても実践的な内容となっている。そして、第 5 章の病態別輸液管理には処方例も解説されている。いずれも、執筆者の豊富な臨床経験により、実にわかりやすい解説がなされている。本書は、一般的な教科書と異なり、読んでいて飽きがこないし、むしろ楽しい気持ちになる一書である。

甲南女子大学副学長 (IR 統括担当)

医療栄養学部学部長

医療栄養学科教授

滋賀医科大学客員教授

佐々木雅也